

3 資料調査研究プロジェクト

[概要]

歴博では、所蔵資料を研究に広く有効に利用できるように、目録情報や画像などの基礎データを調査・整理し、資料目録や資料図録をはじめとする多様な形態で公開することを目的とした資料調査研究プロジェクトを、計画的に進めている。本年度は、「棟梁鈴木家資料」と「縄文時代資料」をプロジェクトにより調査した。

資料担当 仁藤 敦史

[各プロジェクト]

(1) 「棟梁鈴木家資料」2022～2024年度

(研究代表者 工藤 航平)

1. 目的

棟梁鈴木家資料は、徳川幕府小普請方支配御屋根方棟梁を務めた鈴木家に関する資料群である。幕府の建築工事は、主に表向を管轄した作事方と、奥向を管轄した小普請方の二役所によって行われた。作事方、特にその頂点にいた大棟梁の資料が多く伝来し知られているなかで、小普請方かつ現場を取り仕切った御屋根方棟梁の資料は、幕府職制や具体的職務等を解明する上でも資料的価値は高い。

本プロジェクトは、本館所蔵の棟梁鈴木家資料の調査・整理を行い、全資料の写真撮影および基礎的なデータ作成を行い、資料図録を刊行し、その資料情報を広く公表することが目的である。

2. 経過

本資料群は、絵図72点、文字史料8点、畳板1組から構成されているが、全資料の資料情報は明らかにされていない。本プロジェクトにおいては、絵図および文字史料の調査、館外の関連資料の調査をすすめ、資料に関する基礎情報の収集・整理をし、あわせて写真撮影を行う。また、文字史料の翻刻、主要な絵図のトレースを行い、刊行のための作業を実施する。

3. 成果

文字史料の翻刻、絵図のトレースを行い、刊行のための作業を実施した。また、それらをもとに資料の分析をすすめた。

4. 研究組織 (◎は研究代表者)

◎工藤 航平 本館研究部・准教授

岩淵 令治 学習院女子大学・教授

小粥 祐子 東京都公文書館・公文書館専門員

(2) 「縄文時代資料」2022～2026年度

(研究代表者 中村 耕作)

1. 目的

本館は設立以来多くの考古資料を収集・保管してきた。これらの資料を広く公開し、展示への利用や共同研究における利用を推進するために館蔵資料の調査・整理・記録作業を行ない『国立歴史民俗博物館資料図録』を刊行してきた。これまでに、考古資料として、北海道の縄文時代資料を収集したコレクションの図録である『1 落合計策縄文時代遺物コレクション』(2000年度)、日本各地出土の瓦の図録である『4 瓦コレクション』(2005年度)、弥生時代の青銅器を扱った『6 弥生青銅器コレクション』(2008年度)、『8 古墳関連資料』(2011年度)、『11 亀ヶ岡遺跡・是川遺跡縄文時代遺物』(2014年度)、『12 槻の木遺跡出土品』(2021年度)を刊行してきた。

本プロジェクトは引き続き、縄文時代・弥生時代・古墳時代の館蔵考古資料の調査、整理をし、基礎的なデータの収集及び実測図の作成等を行い、その成果をまとめた図録を刊行することによって、その資料の内容を公表することが目的である。2022年度からは、青森県小渡遺跡の出土品の整理を開始した。縄文時代後期前葉の環状列石や再埋葬をもつ特徴的な文化の基盤となる土器・石器・石製品・土製品等のデータ化は多くの研究に資すると考えられる。

2. 経過

本年度は、対象候補資料の中から、青森県小渡遺跡出土資料（A-226）を整理作業として選定し、土器破片の接合、復元個体の再接合・再修復を実施した。

3. 成果

これまで未整理だった土器破片の接合や、受け入れ時に復元されていた個体を再接合・再修復することによって、土器の全体像を明らかにできる個体数が増加した。これらは今後の研究・展示で中心的に活用可能である。また、破片の中でも重要な資料を抽出し、今後のデータ化の候補とした。

4. 研究組織（◎は研究代表者）

◎中村 耕作 本館研究部・准教授
藤尾慎一郎 本館研究部・教授
山田 康弘 東京都立大学・教授